

令和3年度進行管理・評価シート
高山市 歴史的風致維持向上計画（平成30年3月26日認定）
（最終変更 令和3年2月15日）

□進捗評価シート(様式1)

| | | |
|----------------------------------|-------|----|
| ①組織体制(様式1-1) | | |
| 1 計画の推進体制 | | 1 |
| ②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2) | | |
| 1 景観計画との連携 | | 2 |
| ③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3) | | |
| 1 歴史的建造物活用整備事業 | | 3 |
| 2 歴史的町並保存事業 | | 4 |
| 3 景観重要建造物等修景事業 | | 5 |
| 4 伝統構法木造建築物耐震化事業 | | 6 |
| 5 無電柱化等事業 | | 7 |
| 6 町並み景観保全事業 | | 8 |
| 7 屋台保存事業 | | 9 |
| 8 伝承芸能保存事業 | | 10 |
| 9 郷土の歴史・文化の語り部育成事業 | | 11 |
| 10 伝統行事担い手支援事業 | | 12 |
| 11 文化遺産・地域資源活用調査事業 | | 13 |
| 12 町並み歩行空間創出事業 | | 14 |
| 13 スポット整備事業 | | 15 |
| 14 まちの博物館外国語対応事業 | | 16 |
| ④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4) | | |
| 1 文化財の指定等 | | 17 |
| 2 文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等 | | 18 |
| 3 文化財に関する普及・啓発の取組等 | | 19 |
| ⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5) | | |
| 1 新聞報道 | | 20 |
| ⑥その他(効果等)(様式1-6) | | |
| 1 観光客等の回遊性の向上 | | 21 |

| | | |
|--------------------------------|-------|-----------|
| □法定協議会等におけるコメントシート(様式2) | | 22 |
|--------------------------------|-------|-----------|

評価軸1-1
組織体制

| 項目 | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|---------|--------|--|
| 計画の推進体制 | | 現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 |

計画に記載している内容
計画の推進にあたっては、都市計画課と文化財課が事務局を務め、各事業の実施については、各事業担当課と連携調整を行うとともに、文化財所有者や周辺住民、関係団体や事業者等と協議・調整を行うものとする。また、必要に応じて国や岐阜県、各審議会と協議を行い、助言や支援を得るとともに、法定協議会である高山市歴史的風致維持向上計画協議会において、計画の推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

都市計画課と文化財課の連携の下、計画の推進を図った。
各事業の検討においては、事業所管課を中心に関係各課との連携を図るとともに、地元住民や関係団体等と意見交換を重ね、事業の推進を図った。住民等との意見交換により、事業に対する地元の理解を深めることができた。
計画の進行管理・評価においては、令和3年度は中間評価及び令和3年度進捗評価を実施し、その評価結果について法定協議会である「高山市歴史的風致維持向上計画協議会」から意見聴取を行った。

| 進捗状況 ※計画年次との対応 | 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) |
|--|--------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない | |

状況を示す写真や資料等

■法定協議会への協議状況

- 高山市歴史的風致維持向上計画協議会(書面会議)
- 意見聴取期間 令和4年3月18日～令和4年4月5日(議題)
- ・令和3年度進行管理・評価について
- ・中間評価について

→各委員からの意見に対する回答や今後の対応については、全委員に書面にて報告



中間評価(外部評価員による評価)の様子

■関連協議会への協議状況

- 高山市文化財審議会
- 開催日 令和3年10月19日
- 開催場所 高山市役所4階中会議室(議題)
- ・市指定無形民俗文化財の指定について
- ・市指定天然記念物の指定解除について
- ・歴史資料の整理・公開活用事業について
- ・飛騨高山まちの体験交流館の指定管理者制度の導入について
- ・指定文化財の現状調査の結果について
- ・祭礼行事等に関するアンケート調査の結果について



文化財審議会の様子

評価軸2-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

| 項目 | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|----------------------|--------|---|
| | | 現在の状況 |
| 景観計画との連携(景観重要建造物の修繕) | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 |

計画に記載している内容 地域の個性ある景観づくりの核となる建造物については、景観計画に定めた指定の方針に基づいて景観重要建造物に指定し、その保全と活用を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和2年度に景観重要建造物に指定した旧須田歯科医院について、老朽化やシロアリ被害による修繕の相談が所有者からあったため、歴史的建造物に精通した建築士と共に、現地確認等を行った。所有者との打ち合わせにあたっては、新型コロナウイルス感染症の影響により対面での打ち合わせ等も行いにくい中、所有者の安心につながるよう、相談や要望に対して特に丁寧な対応に努めた。検討の結果、屋根及び土台部分の柱を修繕することになったが、補助制度の有効的な活用のため、修繕工事については令和4年度に実施予定となった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

令和4年度の修繕工事の実施に向け、引き続き所有者や居住者、施工事業者との調整を図る。

状況を示す写真や資料等



旧須田歯科医院の外観



シロアリ被害状況

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|--------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 歴史的建造物活用整備事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉

計画に記載している内容 歴史的建造物の保存・活用を図るため、空き家となった町家等を取得又は借上げのうえ修理・修景を行い、地域の歴史的風致の核となる施設として整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

宮川左岸にある空き家となった大正時代の町家(旧大政)について、飛騨高山にぎわい交流館として整備を行うため、令和3年度、工事を実施した。

この施設は、住民や観光客の回遊性の向上や滞在時間の延長を図るため、令和2年7月に供用開始した行神橋の周辺に人の流れを「誘引」し、誘引した人を「滞留」させ、滞留した人を本町通りや周辺エリアへ「誘導」する機能を備えた施設として整備し、令和4年4月に供用を開始したものである。地域の歴史や景観に配慮した建物改修等により、まちの魅力や価値を高め、住民の街なみ形成活動や観光・交流等の拠点を創出した。

- 令和3年度実績
- ・建物改修工事：一式

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

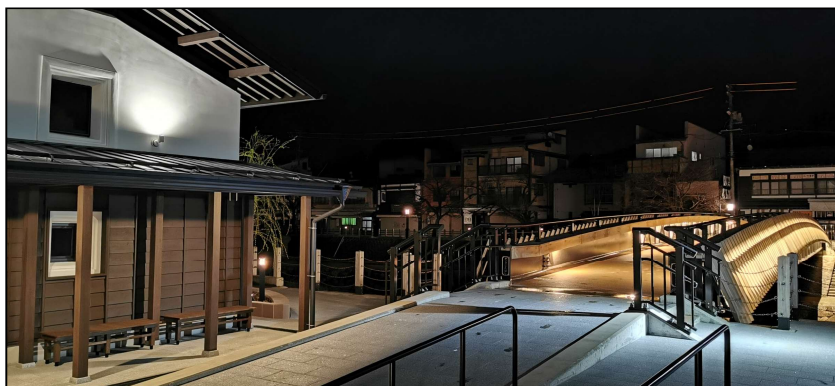
状況を示す写真や資料等



改修前の旧大政(染物店)



改修後(令和4年4月)



行神橋との連続性を保った景観

行神橋の特徴あるデザインと照明との連続性を保ちながら、飛騨高山の町家建築の特徴を活かしつつ、照明などの工夫により、昼夜問わず、市民・観光客の回遊を促す施設として整備を実施した

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | |
|-----------|---|-------|
| | 評価対象年度 | 令和3年度 |
| 項目 | 現在の状況 | |
| 歴史的町並保存事業 | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 昭和54年度～令和6年度

支援事業名 重要伝統的建造物群保存地区保存事業

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の修理及び外観の修景、防火対策に要する経費の一部を助成することにより、歴史的な建造物の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重要伝統的建造物群保存地区内の建造物の計画的な修理・修景を実施することにより、建造物の適切な保存や町並の景観保全を図ることができた。また、防火帯としての土蔵を整備し、地区内における防火帯維持を図ることができた。

□令和3年度実績

- ・伝統的建造物群保存地区保存修理事業 修理補助:4件(修理:4件、修景:0件)
- ・伝統的建造物群保存地区防災対策事業 整備補助:5件
- ・高山市政記念館耐震補強工事(第1期)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



伝統的建造物群保存地区保存修理事業により修理が行われた住宅



伝統的建造物群保存地区防災対策事業により整備が行われた防火壁整備

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|---|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 景観重要建造物等修景事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |
| 事業期間 | 平成26年度～令和6年度 | | |
| 支援事業名 | 社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉 | | |
| 計画に記載している内容 | 景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理や修景に要する経費の一部を助成することにより、まちの景観形成の核となる建造物の保全を図る。 市街地景観保存区域内において行われる建築物の新築・修理等の行為が、伝統的な意匠を基本とした一定の基準を満たす場合に、当該行為に要する経費の一部を助成し、町並み景観の保全を図る。 | | |
| 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で | | | |
| 景観重要建造物の外観を維持するために必要な修理、市街地景観保存区域内の建造物における一定の基準を満たす建築行為に対して助成を行った。歴史ある建造物の維持保全にかかる所有者の経済的負担を軽減するとともに、建造物の形態や意匠等の無秩序な変更を防ぐことにより、周辺の景観と調和した趣のある町並みが保全された。 <input type="checkbox"/> 令和3年度実績 ・景観重要建造物修景事業補助 重点区域内:1件(R2:計1件) ・市街地景観保存区域建造物修景事業補助 重点区域内:5件(R2:6件) | | | |
| 進捗状況 ※計画年次との対応 | 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない | | | |

状況を示す写真や資料等



市街地景観保存区域建造物修景事業により修景が行われた建造物

木製建具への変更、格子の設置、室外機の撤去、外壁の改修を行った

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|----------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 伝統構法木造建築物耐震化事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成26年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 建築基準法施行前に建築された木造建築物は、現在の建築基準法に基づく耐震診断を行った場合、耐震性が非常に低いという結果が出てしまうが、反面、柔らかさや粘り強さがあるという特徴があることから、その特徴に応じた耐震診断や耐震改修工事を行うための「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」を平成25年度に作成した。このマニュアルに基づいて行われる、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助金を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成25年度に作成した「高山市伝統構法木造建築物耐震化マニュアル」に基づいて行われた、伝統的な木造建築物の耐震診断や耐震改修工事に対して補助を行った。耐震性の向上により、継続的に居住できる環境と伝統的な建造物の維持が図られた。

□令和3年度実績

・伝統構法木造建築物耐震化事業補助 耐震診断:1件(R2:2件) 耐震改修:1件(R2:2件)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



耐力壁工事完了後(左官後)

現行の建築基準により耐震改修を行うと歴史的な建築物の形態・意匠を維持できないことが多い。上の写真は、元々耐力要素のなかった箇所にて、金物を用いず板壁で耐力壁を設け、形態・意匠の維持と柔らかく粘り強い伝統構法木造建築物の特性に応じた耐震改修を行ったもの。

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|---------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 無電柱化等事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成29年度～令和6年度
 支援事業名 社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉

計画に記載している内容 高山駅方面から三町伝統的建造物群保存地区や飛騨高山まちの博物館へつながる通り等において、伝統的な町並み景観の再生を図るため、景観を阻害している電線等を地中化するとともに、車道・歩道・側溝等について景観に配慮した整備を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市道上一之町花里線の計画区間660mのうち、350mについて電線共同溝本体工事が完了した。また、三町伝統的建造物群保存地区の区間については、引込設備工事も完了しており、引き続き入線抜柱工事を進めている。

| 進捗状況 ※計画年次との対応 | 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない | 地上機器を含めた全体の修景方法については、地元関係者と協議して進めていく必要がある。 |

状況を示す写真や資料等



無電柱化予定路線(着工前)



無電柱化工事写真(令和3年)



無電柱化整備後(イメージ)

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | |
|-----------|---|-------|
| | 評価対象年度 | 令和3年度 |
| 項目 | 現在の状況 | |
| 町並み景観保全事業 | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成21年度～令和6年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉

計画に記載している内容 良好な町並み景観の創出を促進するため、景観に配慮した形態意匠の看板を設置する場合や、板塀や生け垣を設置する場合等に補助金を交付する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山の景観にふさわしい看板の設置やふさわしくない看板の撤去、生け垣や板塀等の設置に対し助成を行った。広報紙やホームページなど様々な媒体を通じ助成制度の周知に努めてきたところ、制度の活用者も増え、町並み景観の向上に大きく貢献した。

- 令和3年度実績
- ・看板設置及び撤去補助 重点区域内:4件 重点区域外:4件(R2:計13件)
 - ・生垣設置補助 重点区域内:0件 重点区域外:2件(R2:計8件)
 - ・塀等設置補助 重点区域内:7件 重点区域外:32件(R2:計20件)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



景観形成事業(塀等設置)補助金の活用により新設された塀

古くなっていった既存のブロック塀を撤去し、景観にふさわしい板塀を新設した

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|--------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 屋台保存事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 屋台修理: 昭和39年度～令和6年度
保存活動への助成: 平成2年度～令和6年度

支援事業名 屋台修理: 重要有形民俗文化財修理、防災事業
保存活動への助成: 市単独事業

計画に記載している内容 非常に価値の高い意匠を持つ高山祭の屋台の保存管理については、専門的な技術による管理やからくりの伝承等が不可欠であるとともに、屋台の修理には多額の資金が必要である。必要に応じて学識経験者等の指導・助言を得ながら、屋台修理・屋台蔵修理を計画的に実施するとともに、屋台の保存に関わる団体の活動に対して助成を行い、屋台の保存を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山祭屋台の保存修理事業を行い、将来への屋台の継承に寄与した。
令和3年度実績
 ・宝珠台、神馬台、崑崗台、仙人台修理
 高山祭屋台の保存防災施設である屋台蔵の修理を実施し、防災・防犯の機能を回復させた。
令和3年度実績
 ・豊明台屋台蔵修理
 高山祭の屋台を保存する活動を行う団体や修理技術者の育成事業に対して補助を行ったことにより、屋台の保存や修理技術の継承に寄与した。
令和3年度実績
 ・高山祭屋台管理費補助金: 1件 (高山屋台保存会)
 ・からくり屋台管理技術伝承保存補助金: 1件 (高山屋台保存会)
 ・高山祭屋台保存技術伝承保存補助金: 1件 (高山・祭屋台保存技術協同組合)
 ・高山祭屋台保存技術研修事業費補助金及び技術修得補助金: 2件

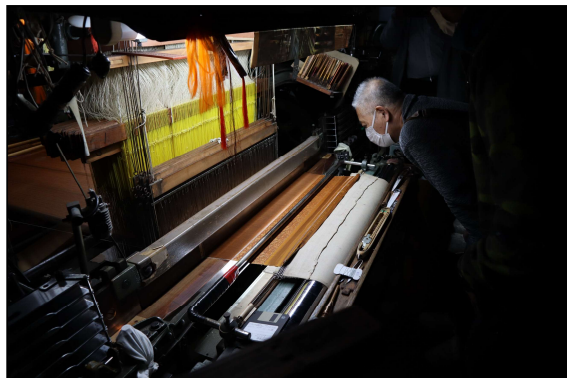
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



仙人台の解体



崑崗台の人形衣装修理

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | |
|----------|---|-------|
| | 評価対象年度 | 令和3年度 |
| 項目 | 現在の状況 | |
| 伝承芸能保存事業 | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成2年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 市内各地で行われている伝承芸能、祭礼活動等は、そこに住む人々の教養や娯楽、環境等から生まれた特有の文化であり、地域の誇りである。しかし、近年、後継者の不足や保存会活動費の不足等で伝承していくことが困難となっている。これらの保存活動に対して助成を行うとともに、記録映像を作成し後継者育成に活用することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

地域の伝承芸能の保存団体に対して活動助成を行ったことにより、伝承芸能の継承に寄与し、地域の誇りの醸成に貢献した。令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い伝承芸能、祭礼活動等が例年通り行えなかったが、関係者への調査を実施するなど実態の把握に努めた。

- 令和3年度実績
- ・伝承芸能保存団体補助金:18件

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

■伝承芸能保存団体

| | |
|-----------------|---------------|
| 高山市子供伝承芸能連合保存会 | ひねりの舞保存会 |
| 岩滝民謡保存会 | 荘川民謡保存会 |
| 飛騨総社親子獅子舞保存会 | 一之宮子ども会鬨鶏楽伝承会 |
| 高山民謡保存会 | 金桶金蔵獅子保存会 |
| 下切町金蔵獅子保存会 | 広瀬金蔵獅子保存会 |
| 飛騨東照宮おかめ・獅子舞保存会 | 荒城神社無形文化財保存会 |
| 飛騨天満宮徳兵衛獅子舞保存会 | 上広瀬金蔵獅子保存会 |
| 千島白山神社獅子舞保存会 | |
| 錦山神社徳兵衛獅子保存会 | |
| 新宮町伊勢神楽保存会 | |
| 宗和流四常社 | |



行事の実施状況(飛騨天満宮徳兵衛獅子舞保存会)

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|------------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 郷土の歴史・文化の語り部育成事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 多くの市民が郷土の歴史・文化を語るできるよう、高山市が認定する歴史ガイドマスターが講師となり、市民による「語り部」を育成することで、後世への継承を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

高山の歴史・文化・自然・ガイド技術などについて学ぶ、語り部養成講座を開催した。参加した市民、ガイドボランティア、観光業者等の方々は、語り部としての活動に役立つ知識や技術を習得することができ、語り部としての資質の向上に寄与した。

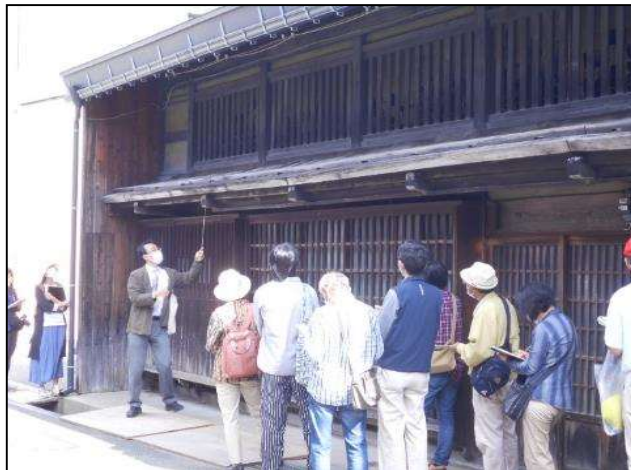
- 令和3年度語り部養成講座開催実績
 - ・開催回数:2回(全4講)
 - ・参加延べ人数:77人

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



語り部養成講座の実施状況
(令和3年10月16日)



語り部養成講座の実施状況
(令和4年3月19日)

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|-------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 伝統行事担い手支援事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 祭りなどの伝統行事の継続に苦慮している地域において人材の確保を図るため、地域内外から伝統行事の担い手として高い志を持った人を募り、伝統行事の実施者と支援希望者をマッチングさせるための人材登録・斡旋を目的とした仕組みの構築及び組織化を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和3年度は、昨年度実施した関係者へのアンケート調査の取りまとめや分析を行った。

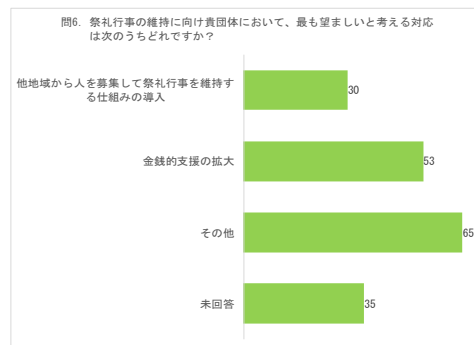
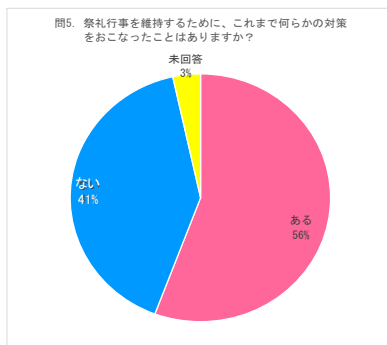
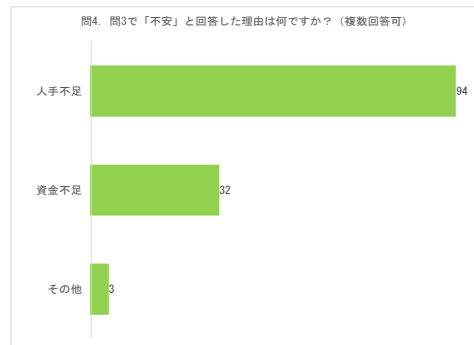
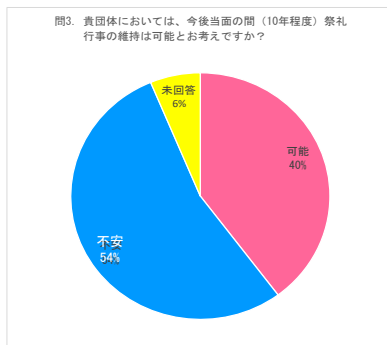
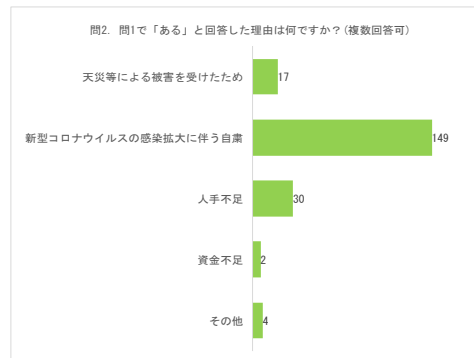
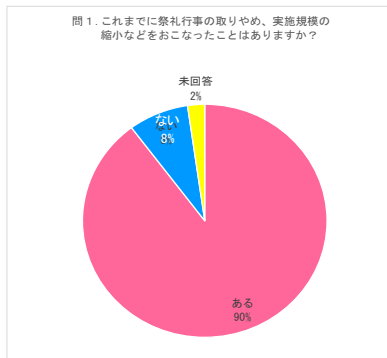
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 今後も祭り関係者との意見交換を継続し、他地域の事例等の収集を行いながら、より効果的な対応策を検討する。

状況を示す写真や資料等

祭礼行事等の継承に関するアンケート調査結果

調査先：市内無形民俗文化財保存団体、市内神社の氏子総代等210件



評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|-----------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 文化遺産・地域資源活用調査事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成30年度～令和2年度

支援事業名 国宝重要文化財等保存・活用事業

計画に記載している内容
 高山祭の屋台は、国指定文化財の23台(山王祭、八幡祭)、県指定文化財の2台(飛騨総社、東山白山神社)が現存しているが、かつては更に多くの屋台が存在していたことが知られている。また、旧町村地域にも現在は使われなくなった屋台が蔵に保管されているほか、詳細な調査が行われていない地域資源も存在している。これらの文化遺産等について、現存する資料の把握や現地調査、聞き取り等により、その歴史的経緯や現状について調査を行い、保存・復刻・活用等を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

料亭洲さきについて、昨年度に刊行した調査報告書をもとに、文化庁調査官による実査を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

祭屋台の保存・復刻調査の結果について、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みながら地元説明会を開催する。料亭洲さきについては調査結果をもとに国指定への取り組みを文化庁と協議しながら進めていく。

状況を示す写真や資料等



文化庁調査官による料亭洲さき実査

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | |
|-------------|---|-------|
| | 評価対象年度 | 令和3年度 |
| 項目 | 現在の状況 | |
| 町並み歩行空間創出事業 | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

| | |
|-------|---------------------|
| 事業期間 | 平成29年度～令和6年度 |
| 支援事業名 | 景観まちづくり刷新支援事業、市単独事業 |

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区及びその周辺の通りにおいて、景観に配慮した舗装・側溝の整備による美装化や、外縁部の駐車場からの誘導ルートとなる人道橋の新設などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市道上二之町大新町線において、景観配慮型の側溝整備や舗装整備を行ったことにより、町並み景観と調和した、潤いのある歩行空間が創出された。
令和3年度実績
 ・市道上二之町大新町線修景整備(施工延長L=168m)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



景観配慮型側溝整備の例(市道上二之町大新町線)

景観に配慮した側溝の整備、舗装を実施した

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| 項目 | 評価対象年度 | 令和3年度 現在の状況 |
|----------|--------|---|
| スポット整備事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 |

事業期間 平成21年度～令和6年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金〈街なみ環境整備事業〉

計画に記載している内容 観光客等が楽しく快適にまちを巡ることができる歩行空間を創出するため、主な動線にまちかどスポット(お休み処)を整備する。整備においては、景観に配慮したベンチや植栽等の配置を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

無電柱化整備を進めている市道上一之町花里線沿いにあるまちかどスポットについて、周囲の景観に配慮した修景整備を行い、歩行空間の魅力向上を図った。

□令和3年度実績

- ・駅前ポケットパークの整備:1箇所

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



駅前ポケットパークの整備(市道上一之町花里線)

駅前ポケットパークにおいて、舗装の修景や、融雪装置が目立たないようにするフェンスの設置など、周囲の景観に配慮した整備を行った

評価軸3-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|---------------|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| まちの博物館外国語対応事業 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |

事業期間 平成30年度～令和6年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 外国人観光客の増加に伴い、外国人観光客が多く立ち寄る飛騨高山まちの博物館において、展示物の説明表示を多言語化するとともに、外国語で展示内容や高山の歴史文化を説明できるガイドを養成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館ボランティアガイド有志による、多言語ガイドに関する勉強会(多言語ボランティアの会)は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送った。

観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を受け、展示室の一部のテーマ解説文の英訳を実施した。

地域通訳案内士にまちの博物館主催「語り部養成講座」への参加を呼びかけ、参加いただいた。「語り部養成講座」への参加により、外国人へのガイドを行う際に必要な高山の歴史・文化についての具体的な知識や手法について習得することができ、ガイドの資質向上に寄与した。

□令和3年度実績

・「語り部養成講座」への地域通訳案内士の参加:4人

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



観光庁の「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」による現地取材の様子 (令和3年7月12日)



地域通訳案内士が参加した「語り部養成講座」の様子 (令和3年10月17日)

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

| 項目 | 評価対象年度 | 令和3年度 現在の状況 |
|---------|--------|---|
| 文化財の指定等 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 |

計画に記載している内容 未指定の文化財については、調査・研究によりその価値を適切に判断し、新規の指定等を含めて保存・活用に向けた取り組みを行っていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和3年度は、1件を市の文化財として新たに指定したほか、1件を指定解除した。また、1件が国の文化財として登録された。

□令和3年度実績

- ・新規指定:1件 市指定無形民俗文化財:飛騨高山の飾り物
- ・新規登録:1件 国登録有形文化財(建造物):旧須田歯科医院
- ・指定解除:1件 市指定天然記念物:からかさ松(※滅失による)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



新規指定:無形民俗文化財「飛騨高山の飾り物」



新規登録:有形文化財(建造物)「旧須田歯科医院」



指定解除:天然記念物「からかさ松」

評価軸4-1

文化財の保存又は活用に関する事項

| | | 評価対象年度 | 令和3年度 |
|--|--|---|-------|
| 項目 | | 現在の状況 | |
| 文化財の修理事業、周辺環境の整備事業等 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 | |
| 計画に記載している内容 | 指定等文化財については、適切な保存が図られるよう計画的に修理を実施する。 文化財指定建造物のほとんどが木造であり、火災や地震に対し脆弱であるため、火災報知設備の設置や耐震対策を行う。 | | |
| 定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で | | | |
| 市指定文化財「旧高山町役場」(高山市政記念館)と県指定文化財「旧富田家」において修理や防災対策を実施することにより、適切な保存を図ることができた。工事中には現場見学会を実施することで、貴重な建築技術を学ぶ場を提供し、文化財保護の意識涵養につながった。 <input type="checkbox"/> 令和3年度実績 ・指定文化財の保存修理事業:2件 ※市指定(伝建地区特定物件):旧高山町役場、県指定:旧富田家 | | | |
| 進捗状況 ※計画年次との対応 | 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述) | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない | | | |

状況を示す写真や資料等



旧高山町役場(高山市政記念館)の耐震補強工事



旧富田家の屋根葺き替え工事

評価軸4-1

文化財の保存又は活用に関する事項

| 項目 | 評価対象年度 | 令和3年度 現在の状況 |
|------------------|--------|---|
| 文化財に関する普及・啓発の取組等 | | <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手 |

計画に記載している内容
 飛騨高山まちの博物館については、市の歴史民俗資料の保存活用の中心施設として、郷土教育や伝統文化の継承の場としても活用を図っていく。
 文化財に関する講座の開催や出前講座の開催等、文化財の保存及び活用に関する普及啓発を、様々な機会を使って実施する。
 町並み保存団体、屋台組をはじめとする文化財を保存・活用する各種団体については、活動への助成、情報提供、研修等を通じて組織の維持と活性化を支援していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

飛騨高山まちの博物館において、特別展を年4回開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により来館者は減少したが、趣向を凝らした展示で来館者に高山の歴史や文化にふれていただく機会を提供した。
令和3年度実績
 ・飛騨高山まちの博物館利用者数:87,932人(令和4年1月末時点) ※令和2年度:89,466人

景観町並保存会や高山祭の屋台を保存する団体、地域の伝承芸能や文化財の保存団体に対して活動補助を行った。
令和3年度実績
 ・景観町並保存会に対する補助金:21団体
 ・高山祭の祭礼復興に対する補助金:1団体
 ・指定文化財保存会に対する補助金:2団体
 ・史跡保存会に対する補助金:12団体

地域の有形無形の伝統文化や文化財の保存活用、美しい景観の保全などを目的に、3年以上活動している団体や個人を市長が認証する「美しいふるさと認証制度」について、令和3年度は2団体を認証し、これまでの認証団体が138団体となった。各団体の活動を公的に認めることにより励みとなるほか、市広報紙などでのPRにより、活動の活発化につながった。
令和3年度美しいふるさと認証者
 ・景観保全:2団体

高山市景観町並保存連合会の3つの専門部会において、例年、市と連携して事業を行っているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症のため予定どおりの活動ができなかった。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



令和3年度 美しいふるさと認証章授与式(令和3年11月1日)

評価軸5-1

効果・影響等に関する報道

| 報道等タイトル | 評価対象年度 | |
|---|------------|--------|
| | 年月日 | 掲載紙等 |
| 祭り彩る「コイの放流」活動に幕 コイ生産者の高齢化などで確保困難 | 令和3年4月14日 | 高山市民時報 |
| 春の高山祭が14日に始まる コロナ予防のため大幅縮小し | 令和3年4月14日 | 高山市民時報 |
| 日和田高原の石仏をPR高根観光協会が看板設置など | 令和3年4月28日 | 高山市民時報 |
| 高山市、AI顔認識カメラで観測 5連休人出昨年比25倍 | 令和3年5月13日 | 中日新聞 |
| 中心から外側 円描くように 高山の車田 保存協会会員ら田植え | 令和3年5月17日 | 中日新聞 |
| 若者の拠点 村半に全建賞 歴史的価値保つ改装評価 | 令和3年6月3日 | 中日新聞 |
| 「文化財めぐりウォークラリー」高山市教委が新ルート 下二之町大新町伝統的建造物群を追加 | 令和3年6月4日 | 岐阜新聞 |
| 文化財 歩いて健康に ウォークラリー利用呼び掛け 越中街道コース新たに追加 | 令和3年6月11日 | 中日新聞 |
| 高山市の「村半」整備事業 20年度全建賞に輝く | 令和3年6月18日 | 建通新聞 |
| 「旧豊坂家住宅」の見学会 平湯・・・大規模修理が終了 | 令和3年6月21日 | 高山市民時報 |
| 茅葺き屋根の葺き替えを見学 飛騨の里・旧富田家・・・50人参加 | 令和3年7月12日 | 高山市民時報 |
| 「国登録有形文化財」の登録へ答申 大正後期地区の旧須田歯科医院が | 令和3年7月19日 | 高山市民時報 |
| 秋の高山祭、神事粛々 桜山八幡宮 屋台行事、2年連続中止 | 令和3年10月10日 | 岐阜新聞 |
| 歴史、文化 町並みに学ぶ 高山で「語り部養成講座」 | 令和3年10月19日 | 中日新聞 |
| 「飛騨高山の飾り物」が市無形民俗文化財に | 令和3年11月3日 | 高山市民時報 |
| 耐震補強工事中の旧高山町役場 持ち上がった建物などを見学 | 令和3年11月29日 | 高山市民時報 |

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の影響により、伝統行事が中止または縮小されることによる伝統の継承に対する危機感が報道された。一方、修理工事や耐震補強工事を実施した市指定文化財「旧豊坂家住宅」、市指定文化財「旧高山町役場」(市政記念館)、県指定文化財「旧富田家」の見学会等については、感染症対策を行いながら、機を逃すことなく、文化財等に触れる取り組みとして実施し、これらが報道されることにより、文化財保存の重要性が広く発信されるとともに、市民の地域の文化に対する誇りの醸成に繋がった。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

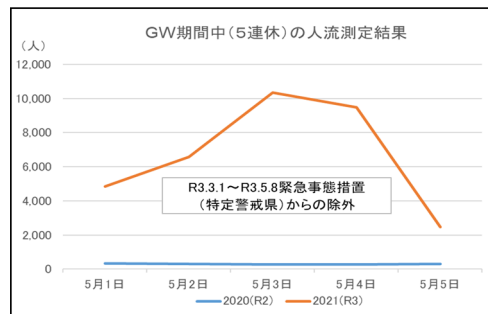
「飛騨高山の飾り物」が市無形民俗文化財に
市は10月29日、江戸時代後期から式年大祭や祝いの事に行われてきた「飛騨高山の飾り物」を、新たに無形民俗文化財に指定した。飾り物は、茶道具や大工道具、書道具など身の回りにある同じ種類の道具を組み合わせ、お題を表現するもの。特に「飛騨高山」では飾る材料をなるべく原形に近く、手軽に飾りながら表現する「見立てもの」が主流で、「軽妙洒脱」を第一とするのが特徴という。古くは天明7年(1787)に高山郡代・大原正純が陣屋稲荷の初午祭の際、町民に「二十四孝」の飾り物を奉納させた記



「江戸後期から続く、市文化財課によると、これらにより市指定無形民俗文化財は21件、同天然記念物は113件となり、市内の指定文化財総件数(県国指定含む)は936件のまま。【上写真】今年「新春飾り物展・丑の部」で天位に選ばれた「闘牛」。

民の機知に富んだ知性と豊かな感性、高度な美意識を表現しており、他に類をみないなどとして市文化財審議会から答申を受けたという。なお、市指定天然記念物の「からかさ松」(国府町宮地)は枯死したことから指定解除となった。これらにより市指定無形民俗文化財は21件、同天然記念物は113件となり、市内の指定文化財総件数(県国指定含む)は936件のまま。

高山市民時報より(令和3年11月3日)



GW期間中の人流測定結果(令和2年、令和3年の比較)



高山市政記念館耐震補強工事の現場見学会の様子(令和3年11月28日)

評価軸6-1
その他(効果等)

評価対象年度 令和3年度

項目

観光客等の回遊性の向上

計画に記載している内容 道路の美装化や新たな歩行動線の確保、交通体系の見直しによる良好な歩行空間の創出により、市街地における観光客の回遊性の向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

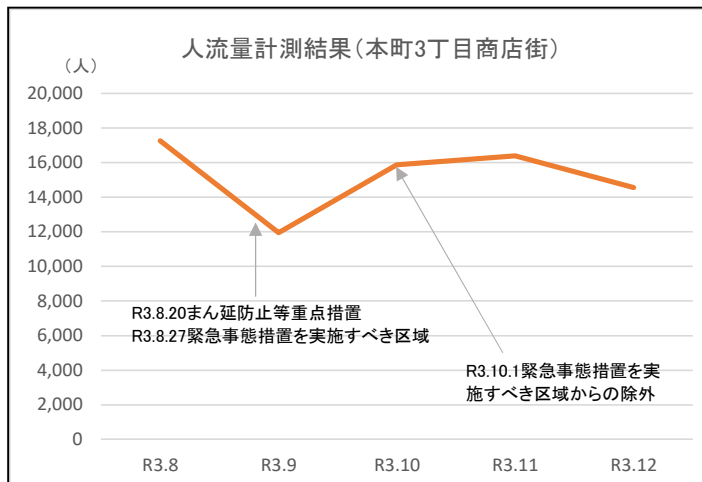
新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客の総数は激減した。総数が減る中、昨年度人道橋を整備し、令和3年度に街なみ環境整備事業により飛騨高山にぎわい交流館を整備した本町3丁目商店街の人流測定結果によると、まん延防止等重点措置や、緊急事態措置による人の流れの抑制が解除されると、訪問者の数が戻ってきていることから、歩行者が回遊しているとみることができる。また、外国人観光客が見られなくなった一方で、県内や中部圏(静岡県、長野県、愛知県、三重県)からの来訪者の割合が増加した。また、令和2年度には、訪問回数が初めての方よりも、5回以上とする方の割合が高くなっており、国内の近隣の訪問者が幾度か訪れる地域であることも見て取れる。近隣の観光客が何度訪れても楽しめる空間の創出に引き続き努める。

進捗状況 ※計画年次との対応

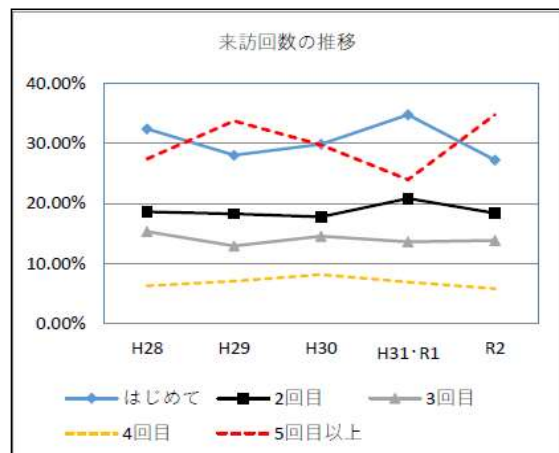
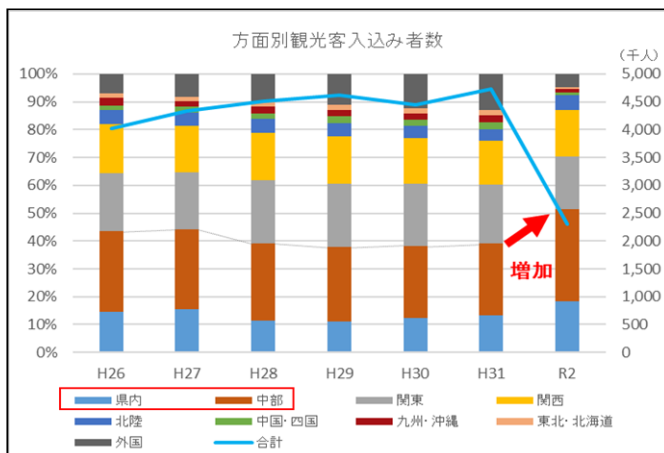
実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



(高山市調査による)



(高山市観光統計より)

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

| | |
|---|-------|
| 評価対象年度 | 令和3年度 |
| ・法定協議会等におけるコメント | |
| コメントが出された会議等の名称: 高山市歴史的風致維持向上計画協議会 | |
| 会議等の開催日時: 令和4年3月18日～令和4年4月5日(書面会議) | |
| (コメントの概要) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各ページの「状況を示す写真や資料等」の欄に、具体的な取り組みが分かりやすく報告されるよう、写真や説明を追加してほしい。 ・少子高齢化による伝承芸能の後継者不足が急速に進んでいる。少子高齢化は補助金だけでは解決できない問題である。関係者との意見交換等により、新たな取り組みを模索するなど、解決に向けた方向性の糸口を見つけていかなければならない。 ・住宅等の耐震化について、簡易的な方法でも補助が可能なように検討できないか。 ・無電柱化事業について、地上器の木の囲いの大きさ、色について検討してほしい。 ・歩行空間創出事業について、古い町並みに流水が見える側溝も高山の魅力の一つ。全ての側溝に蓋をするのではなく、バランスを考え、少しでも流水が見えるよう計画してほしい。 ・コロナ禍にもかかわらず、いずれの事業も順調に取り組んでおり、評価に値する。特に、歴史的建造物活用整備事業は、大正時代の町家を再整備し、人の流れを上町から下町へ、宮川を挟んで朝市と本町通りの交流を促進させる賑わい拠点として活用するものであり、運営スタッフの打ち合わせも順調に進んでおり、今後の展開が大いに期待される。 | |
| (今後の対応方針) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・説明や写真を評価書にさらに追記する。 ・伝承芸能の後継者不足については、関係者との意見交換や先進事例の調査等を行い、実施可能な支援方法について検討する。 ・住宅等の耐震化を促進するため、簡易補強や耐震化マニュアルによる改修にも助成しており、引き続き、所有者への周知に努める。 ・無電柱化事業による地上器については、交通への影響と景観に対する配慮の両面から、最適な手法を検討し、地域と協議しながら、選定を進める。 ・歩行空間創出事業の側溝整備については、流水が見えるという点についても考慮し、事前に地元関係者と蓋の設置位置を確認し実施しているところ。今後も同様に調整を行いながら計画する。 ・歴史的建造物活用整備事業については、令和4年4月11日に飛騨高山にぎわい交流館「大政」を供用開始した。人の流れを「誘引」し、誘引した人を「滞留」させ、滞留した人を周辺エリアへ「誘導」する空間として機能を発揮するよう、運営会議を設置するなど、官民一体となった取り組みを進める。 | |